

◆機関別認証評価について

高等専門学校は、学校教育法の規定に基づき、教育研究等の状況について、一定期間ごとに、文部科学大臣から認証を受けた評価機関による評価を受けることが義務づけられています。高等専門学校への認証評価は、「独立行政法人大学評価・学位授与機構」を認証評価機関として平成17年度から開始されました。

豊田高専は、平成26年度に認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」と判定されました。

今回の認証評価において、**本校の主な優れた点**として挙げられたのは、以下の各点です。

- 準学士課程の電気・電子システム工学科4年次「電気電子工学実験ⅡB」では、PBL実験テーマにおいて、ブレインストーミング及びKJ法によるアイデアシミュレーション（グループディスカッション）を行い、異なる発想に触れる中から新たな発想を生み出させるよう工夫を行っている。また、情報工学科5年次「エンジニアリングデザイン実習Ⅱ」では、専用のワークブックを開発し、グループ内でのブレインストーミングによるアイデア創出を行わせるなど、創造性の育成を図っている。
- 専攻科課程において、平成21年度科学技術振興機構（JST）「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」（後の文部科学省採択事業）の成果を活かした産学官連携の「創造的ものづくり技術者育成プログラム」を導入して、電子機械工学専攻1年次及び2年次の「電子機械工学特別実験」、情報科学専攻1年次及び2年次の「情報科学実験」では、地域のものづくり企業の技術者と専攻科課程の学生とにより、専門分野が異なるようにチームを編成し、異分野や立場の異なるメンバーによるチーム内でのディスカッション、デザインレビュー発表会を通して、異なる発想に触れる中から自らの新たな発想を生み出させることにより、創造性の育成を図っている。
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望数）は極めて高く、就職先も製造業や建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率（進学希望者数／進学希望者数）は高く、専攻科課程の進学率は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。

- 海外留学について、積極的な取組がなされ、毎年数十人規模の多数の学生が留学する成果を上げている。
- 自己点検・評価において課題として指摘された英語教育について、改善への積極的な取組を展開し、外部試験の活用、英語の教育課程改訂とともに、平成 20 年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「多読・多聴による英語教育改善の全学展開」の成果を活かし、英語の多読・多聴を授業に取り入れ、成果を上げている。
- 英語教育などの問題点への取組だけでなく、キャリア教育などの教育の充実への取組、また教育改善推進室が中心となったファカルティ・ディベロップメント活動を教育の改善・充実へ結び付ける取組など、教育の改善・充実への学校全体の取組が効果的に行われている。

*** 参考**

○ 認証評価結果の詳細は下記ページをご覧ください。

http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201503/kousen/no6_1_3_toyota_k201503.pdf

○ 認証評価は、「自己評価書」を中心として行われます。本校の「自己評価書」は下記ページをご覧ください。

http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201503/kousen/no6_1_3_jiko_toyota_k201503.pdf